

東京湾再生のための行動計画(第二期)プロジェクトの令和2年度フォローアップ

担当分科会	No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況							プロジェクトの目標	担当部局	
				第1期期末評価時点 (集計年度)	① 令和元年度の実施状況			② 令和2年度の実施状況 (令和2年4月～令和3年1月末時点)					③ 令和3年度の実施予定
					場所	実施状況	備考	場所	実施状況	備考			
海域	1	深掘跡の埋め戻し	浚渫土砂等を有効活用し、青潮の発生要因のひとつとされている深掘跡の埋め戻しを行う。	千葉港及び湾奥部に存在する深掘跡の埋め戻しを実施 埋め戻し量約1,500m ³ (平成15年度～平成23年度)	千葉港及び湾奥部	千葉港及び湾奥部に存在する深掘跡の埋め戻しを81万m ³ 実施	—	千葉港及び湾奥部	千葉港及び湾奥部に存在する深掘跡の埋め戻しを約42万m ³ 実施	—	引き続き深掘部の埋め戻しを実施する。	達成量	千葉県環境生活部 (千葉県農林水産部)
	2	干潟・浅場等の保全・再生・創出	水質改善や生物多様性の確保に資する干潟・浅場等の保全・再生・創出を行う。	東京湾内の3カ所において、全8.5haの浅場・緑地・磯浜・藻場を再生・創出するとともに、モニタリングにより効果を検証 (平成18年度～平成24年度)	東京港野鳥公園	干潟にてモニタリングを実施	—	東京港野鳥公園	干潟にてモニタリングを実施	—	実施予定	再生・創出された干潟の造成面積:10ha以上	東京都港湾局
	3	覆砂	浚渫土砂等を有効活用し、底質の改善を目的とした覆砂を行う。	東京湾奥部(浦安沖)において浚渫土砂を活用した覆砂を実施、覆砂後モニタリングを実施 覆砂約450,000m ³ 、覆砂面積約45ha(平成17・18年度)、モニタリング(平成19～23年度)	東京港・芝浦地区	覆砂約1.0haを実施	—	東京港・芝浦地区	覆砂約0.5haを実施予定 (令和2年度実施予定)	—	実施予定	覆砂された面積:50ha以上	東京都港湾局
	4	生物共生型港湾構造物の整備・改修	生物と共生する港湾構造物の整備を行う。	東京湾内の4カ所において、生物付着を促進する港湾構造物等を整備するとともに、モニタリングにより効果を検証 全整備延長2,215m、再生された干潟・藻場等の面積13.9ha エアレーションの導入等に関して高濃度酸素水発生装置による実海域実験を1カ所で実施。 (平成15年度～平成24年度)	横浜港京浜地区	多様な利生物環境を実現するため、リサイクル材を利用した実証実験を実施	—	横浜港京浜地区	多様な利生物環境を実現するため、リサイクル材を利用した実証実験を実施中	—	引き続き取組を継続する。	生物共生型港湾構造物の整備数:5カ所	関東地方整備局 港湾空港部
	5	浚渫土砂等の高度利用の推進	浚渫土砂や建設副産物(スラグ等)の高度利用に向けた施策を推進する。	横浜港金沢地区で、浚渫土砂と一部潜堤にスラグを混合した人工石を活用した浅場・藻場造成を実施するとともに、モニタリングにより効果を検証 浅場造成 0.8ha(平成21年度)、モニタリング実施(平成22～24年度)	富津市富津地区	引き続き陸上建設発生土により、富津沖に存在する窪地の埋戻し及び覆砂による浅場造成とモニタリング(工事中の水質調査、底質・底生生物調査等)を実施 習志野市茜浜地先マコガレイ産卵場へ細砂主体の良質な浚渫土砂を投入。	—	富津市富津地区 千葉港	引き続き陸上建設発生土により、富津沖に存在する窪地の埋戻し及び覆砂による浅場造成とモニタリング(工事中の水質調査、底質・底生生物調査等)を実施 習志野市茜浜地先マコガレイ産卵場へ細砂主体の良質な浚渫土砂を投入。	—	引き続き取組を継続する。	—	関東地方整備局 港湾空港部
	—	—	—	—	横須賀港 追浜地区	追浜地区での浅海域整備について、浅海域及び付帯施設の整備を実施(7月～12月) 整備後の経過観察を実施(1月～3月)	—	横須賀港 追浜地区	浅海域(干潟)の整備を実施し、現在は経過観察中	—	引き続き経過観察を行いながら利活用や管理等についての検討を行う。	—	横須賀市みなと振興部
	6	NPOや企業、漁業者等による藻場等の造成の推進	NPOや企業、漁業者等による藻場等を造成する際の支援等を行う。	(第2期計画から記載)	横浜港金沢区	(一財)セブンイレブン記念財団、(株)高千穂、東洋建設(株)、マルハニチロ(株)、東京ガス(株)により、市民団体と連携したアマモ場造成に関する活動を展開	—	横浜港金沢区	(一財)セブンイレブン記念財団、東洋建設(株)、マルハニチロ(株)、東京ガス(株)により、市民団体と連携したアマモ場造成に関する活動を展開	—	引き続き取組を継続する。	6カ所以上で実施	関東地方整備局 港湾空港部 横浜市
	7	臨海部企業が有する護岸の改修に対する技術的支援・助言	臨海部企業が所有する護岸を改修する際に、環境機能を付加させる技術の支援・助言を行う。	(第2期計画から記載)	—	「港湾の施設の技術上基準・同解説(H30.5)(日本港湾協会発行:国土交通省港湾局監修)」の共通編に関する参考技術資料に、生物共生型港湾構造物の項目を新設	—	—	「生物共生型港湾構造物の整備・維持管理に関するガイドライン」(H26.5)について、引き続き、港湾管理者、民間事業者等へ普及・展開を行う。	—	引き続き取組を継続する。	10社以上で実施	国土交通省港湾局
	8	汚泥浚渫	底泥から溶出する汚濁物質の低減を図るため、底泥の除去を行う。	東京湾全体で、汚泥浚渫を約308,300m ³ 、覆砂を約10,700m ³ 、約2.1ha実施するとともに、モニタリングにより効果を検証(平成15年度～平成23年度)	東京港・江東地区・芝浦地区・港南地区	汚泥浚渫を約31,000m ³ 実施	—	東京港・江東地区・芝浦地区・港南地区	汚泥浚渫を約5,000m ³ 実施予定 (令和2年度実施予定)	—	実施予定	汚泥の浚渫土量:30万m ³ 以上	東京都港湾局
9	浮遊ゴミ等の回収	海面を浮遊するゴミ・油について、海域環境整備船等にて回収を行う。	約20隻の清掃船等により東京湾全体で、浮遊ゴミを約74,867m ³ 、油を4m ³ 回収(平成15年度～23年度) 海洋短波レーダによる浮遊ゴミ回収システムを開発(平成17年度～20年度) 赤潮回収技術及び回収装置の開発を検討(平成15年度)	東京湾	浮遊ゴミを182m ³ 回収	—	東京湾	浮遊ゴミを162m ³ 回収 (令和2年12月末時点)	—	引き続き取組を継続する。	浮遊ゴミ・油回収量:達成量	関東地方整備局 港湾空港部	
千葉港 木更津港	清掃船により浮遊ゴミを3,476 m ³ 回収	—	千葉港 木更津港	清掃船により浮遊ゴミを1,962 m ³ 回収 (令和2年12月末時点)	—	引き続き取組を継続する。	千葉県土整備部						
川崎港	清掃船により浮遊ゴミを244m ³ 回収	—	川崎港	清掃船により浮遊ゴミを254m ³ 回収 (令和2年12月時点)	—	引き続き取組を継続する。	川崎市港湾局						
東京港	清掃船により浮遊ゴミを2,242m ³ 回収	—	東京港	清掃船により浮遊ゴミを2,336m ³ 回収 (令和2年12月時点)	—	実施予定	東京都港湾局						
横浜港	清掃船により海上漂流物を1,556M/T回収	—	横浜港	清掃船により海上漂流物を0.783M/T回収 (R2.12時点)	—	清掃船による海上漂流物回収を推進する。(横浜港内全体)	横浜市港湾局						

東京湾再生のための行動計画(第二期)プロジェクトの令和2年度フォローアップ

担当分科会	No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況							プロジェクトの目標	担当部局		
				第1期期末評価時点 (集計年度)	① 令和元年度の実施状況			② 令和2年度の実施状況 (令和2年4月~令和3年1月末時点)					③ 令和3年度の実施予定	
					場所	実施状況	備考	場所	実施状況	備考				
海域	10	NPOや企業、漁業者等による海底ゴミの回収や海浜・干潟の清掃活動の推進	NPOや企業、漁業者等による海底ゴミの回収や海浜・干潟の清掃活動を推進する。	海底ゴミの回収や清掃活動をのべ41回開催、のべ11,822人が参加、44.3tのゴミを回収(平成15年度~23年度)	千葉港中央地区	7/25に千葉ポートパークの緑地及び人工海浜の清掃活動を実施、170名参加	—	千葉港中央地区	7/29.30に千葉ポートパークの緑地及び人工海浜の清掃活動を実施、12名参加	—	引き続き取組を継続する。	清掃活動等のイベント回数および市民参加延べ人数:45回、1万3千人	関東地方整備局 港湾空港部	
					横須賀港 走水地区	近隣の小中学生等を中心としたボランティアにより「東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず」を令和元年7月13日に開催し、240人参加、600kgのゴミを回収	—	横須賀港 走水地区	コロナ感染防止対策のため中止	—	引き続き取組を継続する。			
					川崎港東扇島地区	10/9に東扇島クリーン大作戦を開催し、354人参加	—	川崎港東扇島地区	コロナ感染防止対策のため中止	—	引き続き取組を継続する。			
					東京港 ・お台場海浜公園 ・城南島海浜公園	ボランティアによる海浜清掃を開催し268人参加、0.9tのゴミを回収	—	東京港 ・お台場海浜公園 ・城南島海浜公園	中止	—	実施予定			
					横須賀港 走水地区	近隣の小中学生等を中心としたボランティアにより「東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず」を令和元年7月13日に開催し、約240人参加、600kgのゴミを回収	—	横須賀港 走水地区	新型コロナウイルスの影響で中止	—	引き続き取組を継続する。			
					横浜港山下地区	令和元年10月20日に山下公園海底清掃大作戦を開催し、ボランティアダイバーにより海底清掃を実施 93人参加、373kgのゴミを回収	—	市民ボランティア等による海底ごみの回収を推進する(山下公園前)	令和2年10月18日に山下公園海底清掃大作戦を開催し、ボランティアダイバーにより海底清掃を実施 51人参加、約400kgのゴミを回収	—	市民ボランティア等による海底ごみの回収を推進する(山下公園前)			
	11	貧酸素化緩和技術の検討	貧酸素化緩和の調査研究・技術開発を推進する。	千葉港千葉中央地区において、高濃度酸素水発生装置を用いた水・底質改善を実施(機械の製作・設置(平成21年度)、モニタリング実施(平成22~24年度))	—	—	—	—	—	—	—	—	関東地方整備局 港湾空港部	
				千葉港	漁業者に対して浦賀水道以北の貧酸素水塊の分布予測情報を提供するとともに、貧酸素水塊の漁業資源への影響調査を実施した。また、より精度の高い貧酸素水塊の分布予測や青潮被害軽減シミュレーションに取り組み、マウンド造成によって被害の軽減が図られる場合があることが分かった。	—	千葉港	漁業者に対して浦賀水道以北の貧酸素水塊の分布予測情報を提供するとともに、貧酸素水塊の漁業資源への影響調査を実施する。また、三番瀬を対象とした貧酸素水塊の分布予測の試験運用を実施中。	—	浦賀水道以北及び三番瀬を対象とした貧酸素水塊の分布予測システムの運用及び情報提供、貧酸素水塊の漁業資源への影響調査を実施するとともに、貧酸素水塊による漁業被害を軽減する漁場改良手法の検討、開発を行う。				
	12	ブルーカーボンの調査研究・技術開発の推進	海洋(沿岸域)における炭素固定(ブルーカーボン)の調査研究・技術開発・活用方策検討を推進する。	横浜ブルーカーボンに関する検討委員会やシンポジウム、啓発イベント等を開催(平成22年~) 八景島シーパラダイスで、ブルーカーボンに関する実証実験を実施(平成23年~24年)	横浜市内沿岸域	横浜ブルーカーボン事業において、カーボン・オフセット制度を運用し、クレジットの活用を推進。啓発イベント等を開催。	—	横浜市内沿岸域	横浜ブルーカーボン事業において、カーボン・オフセット制度を運用し、クレジットの活用を推進。啓発イベント等を開催。	—	横浜ブルーカーボン事業において、カーボン・オフセット制度を運用し、クレジットの活用を推進。啓発イベント等を開催。	—	—	横浜市温暖化対策事業本部長
				ブルーカーボンに関する定量評価の確立に向けた調査研究を実施(平成24年~)	—	・ブルーカーボンに関する以下の調査研究・技術開発を実施。 (1)国内外の藻場・干潟・サンゴ礁・マングローブとその流域、外海において、炭素動態に関連する水底大気質の実測 (2)干潟水槽・メソコスム水槽において、炭素動態に関する実験 (3)浅海域生態系による波浪減衰や越流量低減効果に関するモデル化と試算 (4)マングローブ、サンゴ礁生態系モデル新規構築と試算 (5)全球推計のための地形・生態系データの収集とGIS解析 (6)溶存炭素同位体分析システム開発と検証実験 (7)植生による流動抵抗を考慮した炭素主軸の生態系モデル開発と検証 ・学識経験者等で構成されたブルーカーボン研究会にオブザーバーとして参画し、ブルーカーボンの活用方策等について検討。	—	—	(1) 全球における炭素循環・生態系モデル開発と検証 (2) 全球における波浪・地形モデル開発と検証 (3) 全球推計のための地形・生態系データの収集とGIS解析 (4) 大型海藻場の炭素動態に関する現地調査、現地実験と数値モデル解析 (5) 浅海生態系におけるこれまでの現地調査結果や数値計算結果のとりまとめ (6) 干潟水槽・メソコスム水槽においてeDNAに関する実験 (7) 大型海藻WSの準備 ・学識経験者等で構成されたブルーカーボン検討会を設置し、ブルーカーボン生態系を活用するための具体的な検討を行う。	—	(1)2019年度の(1)~(6)の各項目を継続 (2)大型海藻WS主催、UN-OCEANへの成果インプット ・引き続き取り組みを継続する。	—	国土交通省港湾局	
13	生態系サービス(海の健康度)の定量化手法の開発	沿岸域の環境の価値を定量的に評価する手法の開発	(第2期計画から記載)	—	生物生息機能だけでなく炭素貯留機能としても重要であるアマモ場の環境価値の定量化手法の検討を開始した。	—	—	ブルーカーボン生態系であるアマモ場の環境価値の定量化手法の改良を実施した。	—	ブルーカーボン生態系であるアマモ場の環境価値の定量化手法の更なる改良を行う。	—	国土交通省 国土技術政策総合研究所		

東京湾再生のための行動計画(第二期)プロジェクトの令和2年度フォローアップ

担当分科会	No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況							プロジェクトの目標	担当部局	
				第1期期末評価時点(集計年度)	① 令和元年度の実施状況			② 令和2年度の実施状況(令和2年4月~令和3年1月末時点)					③ 令和3年度の実施予定
					場所	実施状況	備考	場所	実施状況	備考			
海域	14	自然エネルギー等の活用検討	風力や波力等の再生可能エネルギー、また海藻等のバイオマスエネルギー等の活用検討を行う。	風力等自然エネルギーの導入及び利活用について検討を実施(平成23年度)	—	引き続き、港湾における洋上風力発電の円滑な導入に向け、電気事業法と港湾法に基づく審査手続きの合理化による事業者の負担軽減のため、経済産業省と連携した検討を実施中。平成30年度に引き続き、本年は維持管理審査基準をとりまとめており、平成31年3月に「洋上風力発電設備の維持管理に関する統一解説」を策定・公表。	—	—	令和2年12月に策定された「洋上風力産業ビジョン(第一次)」において、洋上風力発電設備については、電気事業法、港湾法、船舶安全法に基づく審査が必要であるところ、審査書類の共通化を行った上で審査を一本化し、審査の効率化と事業者の負担軽減を図るとしている。	—	審査一本化に向けた取り組みを行っていく。	—	国土交通省港湾局
	15	漁業・漁場を取り巻く環境整備の検討	東京湾の江戸前の魚介類が豊富に存在するための環境整備を検討する。	(第2期計画から記載)	三番瀬、盤洲干潟、富津干潟	漁業者が実施する干潟の保全に係る活動(覆砂、有害生物の駆除、アサリ稚貝の保護など)を支援した。	—	三番瀬、盤洲干潟、富津干潟	漁業者が実施する干潟の保全に係る活動(覆砂、有害生物の駆除、アサリ稚貝の保護など)を支援中。	—	引き続き、漁業者が実施する干潟の保全に係る活動(覆砂、有害生物の駆除、アサリ稚貝の保護など)を支援する。	—	千葉県環境生活部(千葉県農林水産部)
	16	環境教育・体験活動等の推進	東京湾の自然環境を活かした環境教育・体験活動等を行う。	(第2期計画から記載)	東京湾	東京湾各地において、マリンレジャー普及等を図るため、マリン関連団体にて構成されるUMI協議会の参加団体によるボート・ヨット等の体験乗船会や安全に楽しむための啓発活動等のイベントを開催、出展した。(計12件)	—	東京湾	マリンレジャー普及等を図るため、マリン関連団体にて構成されるUMI協議会の参加団体によるボートの乗船体験や安全に楽しむための啓発活動等のイベントを開催、出展した(計1件)ほか、プレジャーボート等によるクルージングのモデルルートであるマリンチェック街道について、GPXファイルを作成し、GPX対応地図にルートが表示されるようにした。(計4件)	—	引き続き取組を継続する。	—	国土交通省海事局
					①横須賀港 ②横浜港(大さん橋)	①横須賀市が主催する地元小・中学校の児童・生徒及び保護者・地域住民を対象とした、東京湾岸の海岸清掃「東京湾クリーンアップ大作戦inはしりみず(7/9)」に参加。(参加総数260名)[直轄事務所から5名参加] ②7/20の「うみ博」にてパネル展示、べいくりん船内公開、当局の海洋環境整備事業等の広報を行った。(船内見学者482名)	—	①横須賀港 ②横浜港(大さん橋)	コロナ感染防止対策のため中止	—	引き続き取組を継続する。	—	関東地方整備局 港湾空港部
					横浜港京浜地区	干潟・磯場環境実験施設「潮彩の渚」を活用し、地元小学校及び近隣の児童を対象として、『港と環境の学習会』を、清掃兼油回収船「べいくりん」のデモンストレーション及び展示ブース設置により、海洋環境整備事業のPRを実施。(7/20,21うみ博、10/26~27東京湾大感謝祭)	—	横浜港京浜地区	干潟・磯場環境実験施設「潮彩の渚」を活用し、地元小学校及び近隣の児童を対象として、『港と環境の学習会』を実施。	—	引き続き取組を継続する。	—	東京都港湾局
					東京港・お台場海浜公園	お台場海浜公園では、地元の小学校を対象に、のりづくり体験学習イベントを、小学校PTA、NPO、地元区と協働して3回開催	—	東京港・お台場海浜公園	お台場海浜公園では、地元の小学校を対象に、のりづくり体験学習イベントを、小学校PTA、NPO、地元区と協働して3回開催	—	実施予定	—	千葉県環境生活部(千葉県農林水産部)
					船橋市	漁業者が、千葉県内外の住民、地域の小学校の教師及び児童を対象に干潟の環境教育や漁業体験を実施し、千葉県もこの取組を支援した。実施回数 13回、受講者数 841名	—	船橋市	新型コロナウイルスの影響により干潟の環境教育や漁業体験を中止。	—	新型コロナウイルスの状況を見ながら、引き続き、漁業者が実施する干潟の環境教育や漁業体験を支援する。	—	千葉県環境生活部(千葉県教育庁)
					実績なし	—	—	千葉県	千葉県立中央博物館による東京湾での海鳥の観察会、海岸での植物観察会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。	—	引き続き、観察会等の施策実施を進めていく。	—	千葉県環境生活部(千葉県農林水産部)
					千葉県	魅力ある千葉県産水産物を紹介するため「水産物直売所マップ」や魚食普及パンフレット「千葉のさかな」を配布。 また、平成30年度は「竹岡つりタチウオ」、「金田産焼きばら乾海苔」を新規に「千葉ブランド水産物」に認定し、PRした。	—	千葉県	魅力ある千葉県産水産物を紹介するため「水産物直売所マップ」や魚食普及パンフレット「千葉のさかな」を配布。	—	引き続き、魅力ある千葉県産水産物を紹介するため各種パンフレットを配布するなど、千葉県産水産物のPRを行う。	—	川崎市港湾局
					川崎港 多摩川河口	外国船見学会(年1回)、多摩川河口干潟の生きもの観察会(年8回)や各種団体等による夏休み川崎港見学会(年3回)、夏休み海洋環境教室(年1回)、川崎みなと祭り(年1回)、水辺の楽校(年10回) ※東京湾~河口域での開催回数	—	川崎港	各種団体等による夏休み川崎港見学会(年2回)、魅力体験ツアー(年1回)、水辺の楽校(月1回程度) ※東京湾~河口域での開催回数	—	引き続き取組を継続する。	—	横須賀うみかぜカーニバル実行委員会(横須賀市等)
横須賀港 新港地区	今年度より会場を4箇所に増やし、令和元年6月9日に観音崎海岸、7月20日、21日にうみかぜ公園、8月2日に海辺つり公園、9月1日に深浦ポートパークで「横須賀うみかぜカーニバル」を開催し、マリンスポーツの体験乗船会等を実施。 来場者13,300人、体験乗船者655人	—	横須賀港	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からZOOMを利用したオンラインイベントを8月9日に開催し、オンラインボートクルージング体験等を実施。 また、当日の様子などを市公式YouTubeチャンネルへ投稿。 参加者数:72組126名 市公式YouTube視聴者数:1,852人(令和2年12月11日時点)	—	引き続き取組を継続する。	—						